

2014年1月25日 9-16時

第1回超音波ガイド下神経ブロックトレーニングコース

@大阪医科大学 MSSC 報告書

#### ①開催形態

開催施設責任者：林 道廣（大阪医科大学附属病院医療技能シミュレーション室）

開催協力部門：医療安全対策室、医療プロフェッショナル支援室

開催講座責任者：南敏明（大阪医科大学麻酔科学教室）

#### ②インストラクター

コースコーディネーター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

インストラクター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

藤原俊介 大阪医科大学麻酔科学教室 医療プロフェッショナル支援室

酒井規広 大阪府立呼吸器アレルギーセンター麻酔科

上嶋浩順 埼玉医科大学国際医療センター麻酔科

中本あい 住友病院麻酔科

#### ③参加者 36名

学内 35名

麻酔科レジデント・教員・非常勤講師

学外参加 1名

市立枚方病院形成外科

#### ④コース内容と学習目標

9:30～9:45 開会の挨拶とコース案内 南 駒澤

9:45～12:00 超音波ガイド下神経ブロックの基本ピットホール

～してそうでしない基本講義編～ 上嶋、酒井

12:00～13:00 ランチョン講義 駒澤、藤原

13:00～16:00 ～やってみたら実はしないハンズオン編～

上嶋、酒井、中本、駒澤、藤原

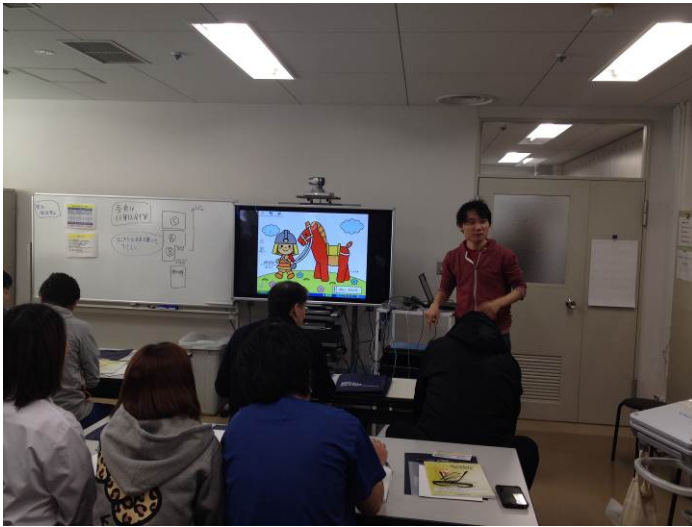
#### ⑤開催風景

開会の挨拶 南敏明麻酔科教授、医療総合研修センター長



講義





ランチョンセミナー 局所麻酔薬中毒への対応、質疑応答



体幹の神経ブロック







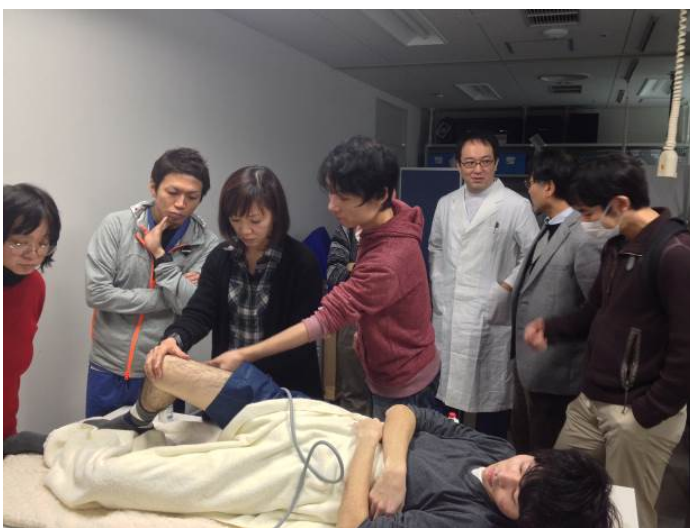
上肢の神経ブロック







下肢の神経ブロック





西原同門会長の総括



全体集合写真





## ⑥開催後のアンケート

麻酔科の後期研修医からは、日常臨床業務の中で緊張しながら施行している超音波ガイド下神経ブロックの手技に関して、落ち着いた状況で反復して訓練することができたという意見が多かった。また、日常業務を行う関連病院ごとに手技や方法が若干異なるため、ディスカッションにより知識や留意点に対する新たな気付きを得たという意見もあった。参加した部長等の管理者からは教育関連病院全体で、スタンダードな手技と合併症への対応を学ぶ機会となった、自分が忘れていた確認事項を喚起することができた、稀だが重篤な合併症への対処を学ぶことができた、などの意見があった。全員が受講して良かったと回答した。

最後の教育病院群全体でのディスカッションでは、神経ブロック自体の知識獲得だけでなく、頻度の少ない危機的合併症に対する対処方法の討議ができたという意見が多かった。また、導入に当たり各診療科間とのコンセンサスの確立や合併症発生時の教育病院群全体での対策等の重要性が示唆された。

## ⑦今後の取り組み

教育病院群全体で超音波ガイド下神経ブロック講習会を行う事は円滑な導入や合併症対策を考える上で有効と考えられた。2014年度も継続して超音波ガイド下神経ブロック講習会を開催したい。